

# グローバル超好配当株式ファンド (隔月決算型) / (資産成長型)

&lt;340&gt; &lt;3401&gt;

## (隔月決算型) 追加型投信 / 内外 / 株式

日経新聞掲載名: グロ好配隔月

## (資産成長型) 追加型投信 / 内外 / 株式

日経新聞掲載名: グロ好配成長

## 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、予想配当利回りが高い世界の株式に投資し、安定的な配当等収益の確保と値上がり利益の獲得による信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## (隔月決算型)

第17期 2022年7月25日決算

第18期 2022年9月26日決算

第19期 2022年11月24日決算

## (資産成長型)

第6期 2022年11月24日決算

## (隔月決算型)

第19期末	基準価額	11,866円
	純資産総額	61百万円
第17期～第19期	騰落率	3.8%
	分配金合計	180円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

## (資産成長型)

第6期末	基準価額	12,240円
	純資産総額	69百万円
第6期	騰落率	3.7%
	分配金	0円

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先



コールセンター 受付時間 9:00～17:00(営業日のみ)  
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、  
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

◇SKU0340120221124◇

「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

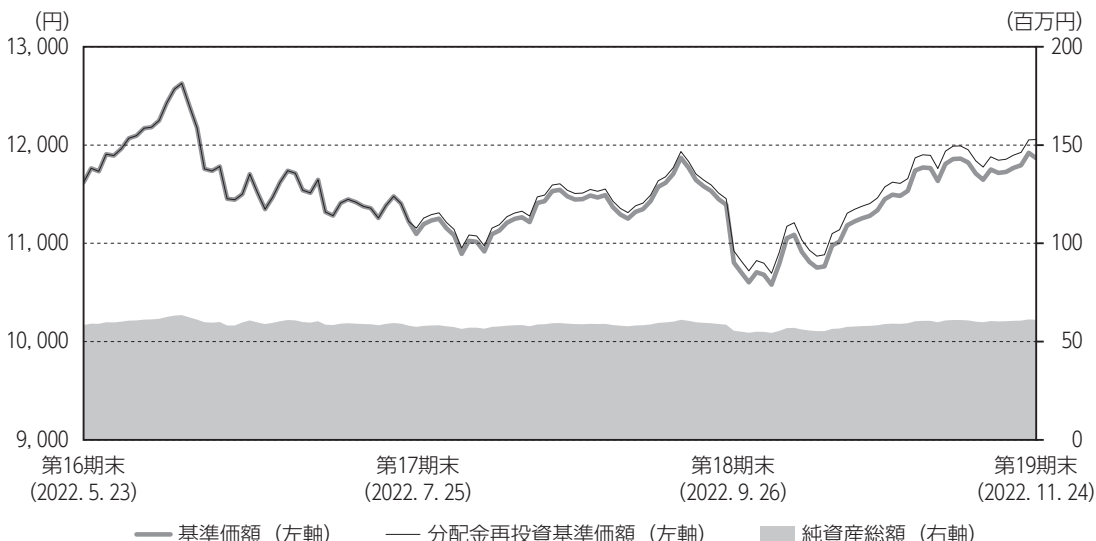
上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択

隔月決算型



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### 基準価額・騰落率

第17期首：11,620円

第19期末：11,866円（既払分配金180円）

騰落率：3.8%（分配金再投資ベース）

#### 基準価額の主な変動要因

日本を含む世界の予想配当利回りが高いと判断される企業の株式に投資した結果、インフレ率の上昇で欧米の金利が上昇したことなどを背景に、世界株式市況は下落しましたが、為替相場において、米ドルなどが対円で上昇（円安）したことがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	第17期～第19期 (2022. 5. 24～2022. 11. 24)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	79円	0.685%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は11,468円です。
(投 信 会 社)	(38)	(0.334)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(38)	(0.334)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.017)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	22	0.194	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(22)	(0.194)	
有 価 証 券 取 引 税	10	0.084	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株 式)	(10)	(0.084)	
そ の 他 費 用	119	1.039	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(80)	(0.700)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(39)	(0.337)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	230	2.002	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

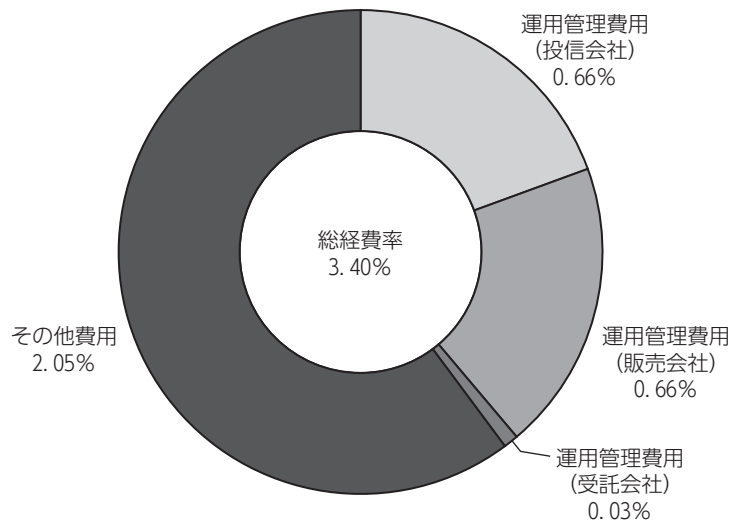
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## 参考情報

### ■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は3.40%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2019年11月5日を10,000として指数化したものです。

\*参考指数はM S C I A C World 指数 (配当込み、円換算) です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

	2019年11月5日 設定	2019年11月25日 決算日	2020年11月24日 決算日	2021年11月24日 決算日	2022年11月24日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,925	8,900	11,059	11,866
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	345
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△0.8	△10.3	24.3	10.6
M S C I A C World 指数 (配当込み、円換算) 騰落率 (%)	—	0.5	10.6	37.5	2.8
純資産総額 (百万円)	50	49	44	55	61

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) M S C I A C World 指数 (配当込み、円換算) は、M S C I I n c . ( 「 M S C I I 」 ) の承諾を得て、M S C I A C World 指数 (配当込み、米ドルベース) をもとに大和アセットマネジメントが円換算したものです。M S C I A C World 指数 (配当込み、米ドルベース) は、M S C I I n c . が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はM S C I I に帰属します。またM S C I I は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。本ファンドは、M S C I I によって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、M S C I I は本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。[<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>]

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

## 投資環境について

（2022. 5. 24 ~ 2022. 11. 24）

### ■世界株式市況

世界株式市況は下落しました。

世界株式市況は、当作成期首から、インフレ率の予想以上の上昇を受けてF R B（米国連邦準備制度理事会）が利上げを加速するとの思惑が強まったことなどから、下落しました。2022年6月半ばにF R Bが利上げ幅拡大を決定した後は、悪材料出尽くし観測などから上昇に転じ、またインフレ率がピークアウトするとの期待感などもあり、8月中旬にかけて上昇が続きました。その後は、F R B議長が景気を犠牲にしてもインフレを抑制する姿勢を強調したことや、予想以上のインフレ率の上昇で欧米の金利が上昇したこと、英国の財政悪化懸念から英国債が急落したこと、企業業績の見通しの下方修正が相次いだことなどが嫌気され、10月半ばにかけて下落しました。当作成期末にかけては、英国発の混乱が収束したことや、一部報道によりF R Bが今後利上げ幅を縮小させるのではないかと期待が高まったことから、株価は反発しました。

### ■為替相場

為替相場は対円で上昇しました。

為替相場は、当作成期首より、米国景気への懸念などからリスク回避姿勢が強まり下落しましたが、2022年6月に米国で大幅な利上げが行われたことなどから、7月前半にかけて投資対象通貨は上昇しました。7月後半には、米国金利が低下に転じると日米金利差の縮小が意識され、円が買い戻されましたが、8月には、米国金利の上昇により日米金利差が再度拡大したことなどから、円安が進行しました。9月に入ると、F R B（米国連邦準備制度理事会）が大幅な金融引き締めを決定したのに対し、日銀は金融緩和政策の維持を決定したことで急速に円安が進行しました。これを受け、日本政府・日銀は円買い介入を実施したものの影響は限定的なものにとどまりました。当作成期末にかけては、米国の利上げペース鈍化観測から下落に転じ、投資対象通貨は上昇幅を縮めました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

「グローバル超好配当株式マザーファンド」の受益証券を通じて、予想配当利回りが高い世界の株式に投資し、安定的な配当等収益の確保と値上がり益の獲得による信託財産の成長をめざします。

## ■グローバル超好配当株式マザーファンド

日本を含む世界の予想配当利回りが高いと判断される企業の株式に投資します。ポートフォリオの構築にあたっては、以下の方針で行うことを基本とします。

- ・ 定量的なアプローチにより、予想配当利回りや配当の持続性と安定性、時価総額等の観点から投資対象ユニバースを選定します。
- ・ 投資対象ユニバースの中から、徹底したボトムアップアプローチにより、配当の持続性と安定性等に着目した定性的な分析・調査を行い、投資候補銘柄を選定します。
- ・ 投資候補銘柄の中から、ポートフォリオの地域・セクターの分散やリスクを考慮しつつ、ポートフォリオの予想配当利回りが相対的に高水準になるよう各銘柄の組入比率を決定します。

## ポートフォリオについて

(2022. 5. 24 ~ 2022. 11. 24)

### ■当ファンド

「グローバル超好配当株式マザーファンド」の受益証券を通じて、予想配当利回りが高い世界の株式に投資し、安定的な配当等収益の確保と値上がり益の獲得による信託財産の成長をめざしました。

### ■グローバル超好配当株式マザーファンド

日本を含む世界の予想配当利回りが高いと判断される企業の株式に投資しました。ポートフォリオの構築にあたっては、以下の方針で行うことを基本としました。

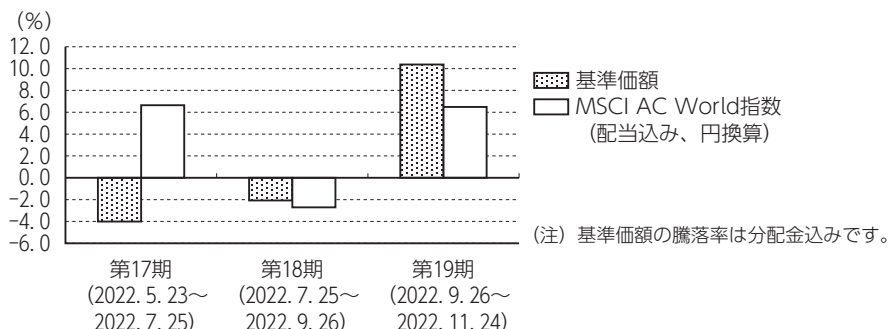
- ・ 定量的なアプローチにより、予想配当利回りや配当の持続性と安定性、時価総額等の観点から投資対象ユニバースを選定します。
- ・ 投資対象ユニバースの中から、徹底したボトムアップアプローチにより、配当の持続性と安定性等に着目した定性的な分析・調査を行い、投資候補銘柄を選定します。
- ・ 投資候補銘柄の中から、ポートフォリオの地域・セクターの分散やリスクを考慮しつつ、ポートフォリオの予想配当利回りが相対的に高水準になるよう各銘柄の組入比率を決定します。

国・地域別では、米国やスイス、英国などを組入上位としました。

個別銘柄では、GILEAD SCIENCES INC（米国）、ABBVIE INC（米国）、EXXON MOBIL CORP（米国）などを組入上位としました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。  
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### 分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第17期 2022年5月24日 ～2022年7月25日		第18期 2022年7月26日 ～2022年9月26日		第19期 2022年9月27日 ～2022年11月24日	
	<b>当期分配金（税込み）</b> (円)	<b>60</b>		<b>60</b>		<b>60</b>
対基準価額比率 (%)	0.54		0.55		0.50	
当期の収益 (円)	60		47		60	
当期の収益以外 (円)	—		12		—	
翌期繰越分配対象額 (円)	1,902		1,890		1,901	

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



## ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第17期	第18期	第19期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 134.42円	✓ 47.33円	✓ 71.58円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	107.35	109.66	111.76
(d) 分配準備積立金	1,720.99	✓ 1,793.14	1,778.41
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	1,962.77	1,950.15	1,961.76
(f) 分配金	60.00	60.00	60.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	1,902.77	1,890.15	1,901.76

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「グローバル超好配当株式マザーファンド」の受益証券を通じて、予想配当利回りが高い世界の株式に投資し、安定的な配当等収益の確保と値上がり益の獲得による信託財産の成長をめざします。

### ■グローバル超好配当株式マザーファンド

日本を含む世界の予想配当利回りが高いと判断される企業の株式に投資します。ポートフォリオの構築にあたっては、以下の方針で行うことを基本とします。

- ・ 定量的なアプローチにより、予想配当利回りや配当の持続性と安定性、時価総額等の観点から投資対象ユニバースを選定します。
- ・ 投資対象ユニバースの中から、徹底したボトムアップアプローチにより、配当の持続性と安定性等に着目した定性的な分析・調査を行い、投資候補銘柄を選定します。
- ・ 投資候補銘柄の中から、ポートフォリオの地域・セクターの分散やリスクを考慮しつつ、ポートフォリオの予想配当利回りが相対的に高水準になるよう各銘柄の組入比率を決定します。

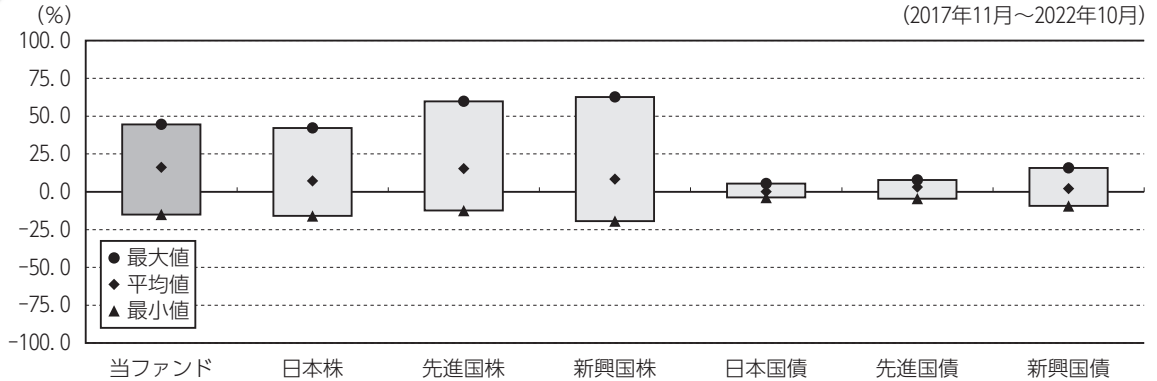


## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2019年11月5日～2024年11月22日	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	グローバル超好配当株式マザーファンドの受益証券
	グローバル超好配当株式マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所上場および店頭登録（上場予定および店頭登録予定を含みます。）の株式（DR（預託証券）を含みます。以下同じ。）
マザーファンドの運用方法	<p>①主として、日本を含む世界の株式の中から、予想配当利回りが高いと判断される企業の株式に投資し、安定的な配当等収益の確保と値上がり益の獲得による信託財産の成長をめざして運用を行ないます。                  ※不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券に投資することがあります。</p> <p>②ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行なうことを基本とします。                  イ. 定量的なアプローチにより、予想配当利回りや配当の持続性と安定性、時価総額等の観点から投資対象ユニバースを選定します。                  ロ. 投資対象ユニバースの中から、徹底したボトムアップアプローチにより、配当の持続性と安定性等に着目した定性的な分析・調査を行ない、投資候補銘柄を選定します。                  ハ. 投資候補銘柄の中から、ポートフォリオの地域・セクターの分散やリスクを考慮しつつ、ポートフォリオの予想配当利回りが相対的に高水準になるよう各銘柄の組入比率を決定します。</p> <p>③株式の組入比率は、通常の状態で高位に維持することを基本とします。                  ④為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、継続的な分配を行なうことを目標に分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	



## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	44.6	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	15.7
平均値	16.1	7.2	15.3	8.4	0.0	3.2	2.0
最小値	△ 15.0	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 3.7	△ 4.5	△ 9.4

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものと異なして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●東証株価指数（TOPIX）の指数値および同指数にかかる標準または商標は、株式会社J.P.X総研または株式会社J.P.X総研の関連会社（以下「J.P.X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標準または商標に関するすべての権利はJ.P.Xが有します。J.P.Xは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.（「MSCI」）が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関しにかかるとも責任を負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。[https://www.daiwa-am.com/jp/specialreport/globalmarket/notice.html] ●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morgan はその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morgan からの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016. J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



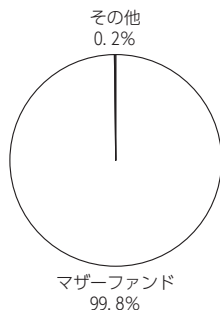
## ファンドデータ

### 当ファンドの組入資産の内容

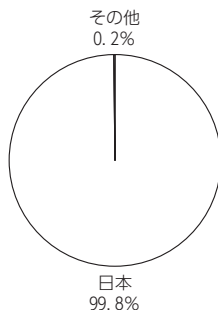
#### 組入ファンド等

	比率
グローバル超好配当株式マザーファンド	99.8%
その他	0.2

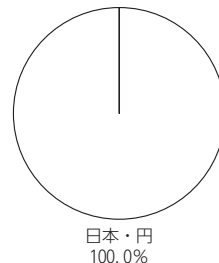
#### 資産別配分



#### 国別配分



#### 通貨別配分



(注1) 上記データは2022年11月24日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

\*当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

### 純資産等

項目	第17期末	第18期末	第19期末
	2022年7月25日	2022年9月26日	2022年11月24日
純資産総額	57,489,084円	55,573,196円	61,058,515円
受益権総口数	51,817,161口	51,432,752口	51,458,760口
1万口当り基準価額	11,095円	10,805円	11,866円

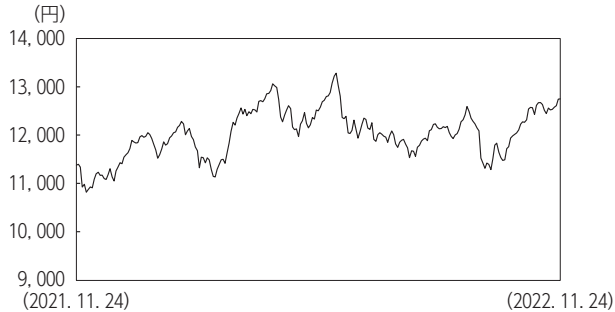
\* 当作成期間（第17期～第19期）中における追加設定元本額は2,066,292円、同解約元本額は895,655円です。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。

## 組入上位ファンドの概要

### ◆グローバル超好配当株式マザーファンド（作成対象期間 2021年11月25日～2022年11月24日）

#### ■基準価額の推移



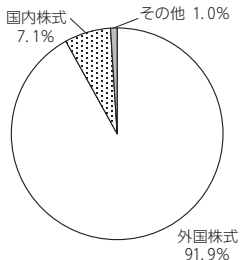
#### ■1万口当りの費用の明細

項目	
売買委託手数料 (株式) (投資信託証券)	59円 (58) (0)
有価証券取引税 (株式)	24 (24)
その他費用 (保管費用) (その他)	193 (151) (41)
合計	276

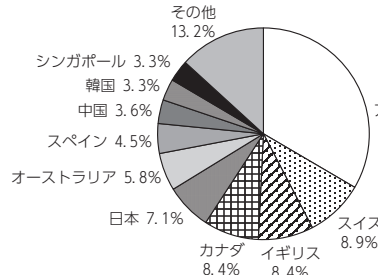
#### ■組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
GILEAD SCIENCES INC	アメリカ・ドル	5.0%
ABBVIE INC	アメリカ・ドル	4.9
EXXON MOBIL CORP	アメリカ・ドル	4.9
IBERDROLA SA	ユーロ	4.5
ZURICH INSURANCE GROUP AG	スイス・フラン	4.5
PRUDENTIAL FINANCIAL INC	アメリカ・ドル	4.3
OGE ENERGY CORP	アメリカ・ドル	3.8
IMPERIAL BRANDS PLC	イギリス・ポンド	3.8
BANK OF MONTREAL	アメリカ・ドル	3.6
INTL BUSINESS MACHINES CORP	アメリカ・ドル	3.6
組入銘柄数		46銘柄

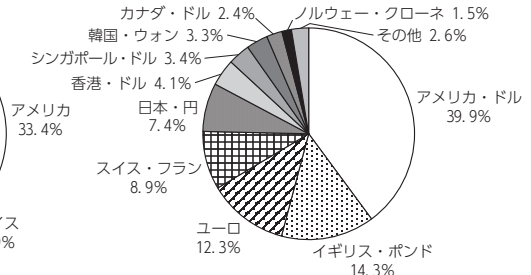
#### ■資産別配分



#### ■国別配分



#### ■通貨別配分



(注 1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものです。

(注 2) 1万口当りの費用の明細における費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注 4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注 5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

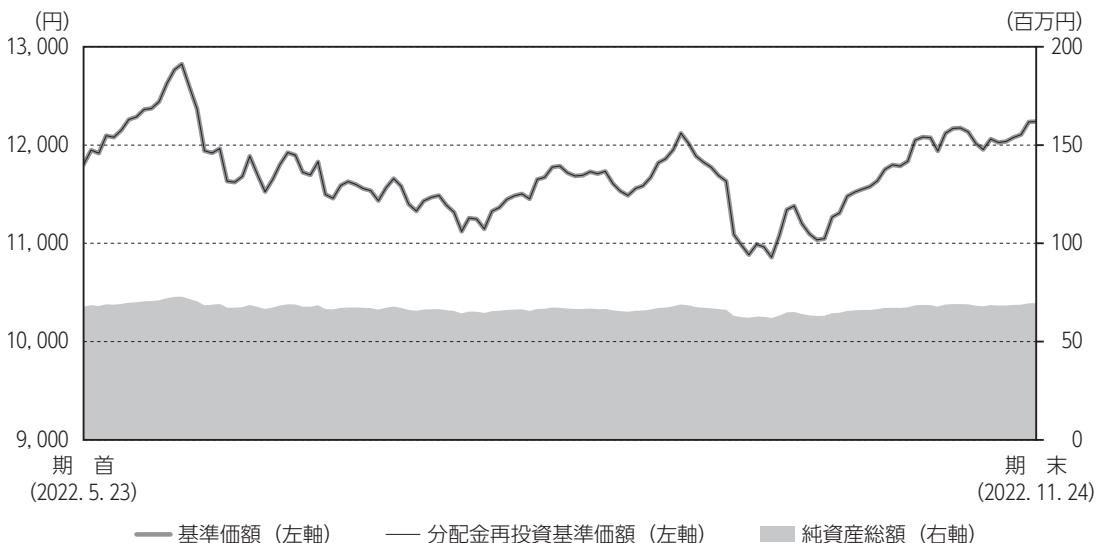
\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

資産成長型



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- \* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- \* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■ 基準価額・騰落率

期首：11,802円

期末：12,240円（分配金0円）

騰落率：3.7%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

日本を含む世界の予想配当利回りが高いと判断される企業の株式に投資した結果、インフレ率の上昇で欧米の金利が上昇したことなどを背景に、世界株式市況は下落しましたが、為替相場において、米ドルなどが対円で上昇（円安）したことがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2022. 5. 24~2022. 11. 24)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	80円	0.686%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は11,713円です。
(投 信 会 社)	(39)	(0.335)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(39)	(0.335)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.017)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	23	0.193	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(23)	(0.193)	
有 価 証 券 取 引 税	10	0.084	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株 式)	(10)	(0.084)	
そ の 他 費 用	122	1.038	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(82)	(0.700)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(39)	(0.336)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	234	2.001	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

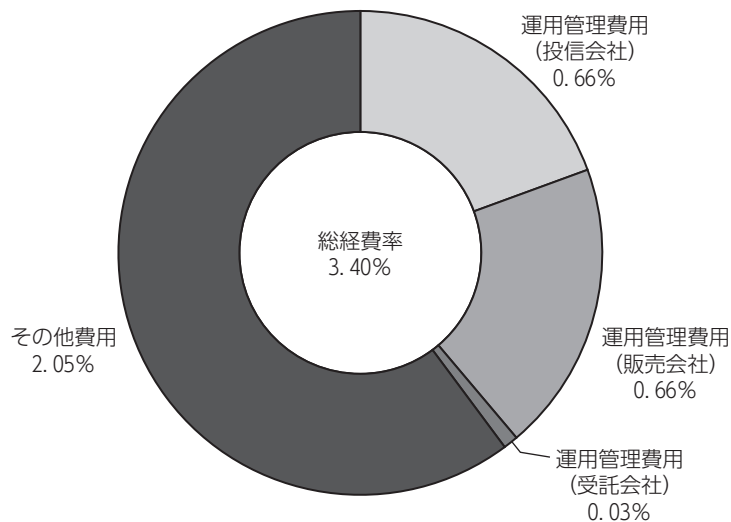
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## 参考情報

### ■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は3.40%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。



## 最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2019年11月5日を10,000として指数化したものです。

\*参考指数はM S C I A C World 指数 (配当込み、円換算) です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

	2019年11月5日 設定	2020年11月24日 決算日	2021年11月24日 決算日	2022年11月24日 決算日
基準価額 (円)	10,000	8,902	11,066	12,240
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△11.0	24.3	10.6
M S C I A C World 指数 (配当込み、円換算) 騰落率 (%)	—	11.1	37.5	2.8
純資産総額 (百万円)	50	44	55	69

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) M S C I A C World 指数 (配当込み、円換算) は、M S C I I n c . (「M S C I」) の承諾を得て、M S C I A C World 指数 (配当込み、米ドルベース) をもとに大和アセットマネジメントが円換算したものです。M S C I A C World 指数 (配当込み、米ドルベース) は、M S C I I n c . が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はM S C I に帰属します。またM S C I は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。本ファンドは、M S C I によって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、M S C I は本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。[<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>]

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

## 投資環境について

(2022. 5. 24 ~ 2022. 11. 24)

### ■世界株式市況

世界株式市況は下落しました。

世界株式市況は、当作成期首から、インフレ率の予想以上の上昇を受けてF R B（米国連邦準備制度理事会）が利上げを加速するとの思惑が強まったことなどから、下落しました。2022年6月半ばにF R Bが利上げ幅拡大を決定した後は、悪材料出尽くし観測などから上昇に転じ、またインフレ率がピークアウトするとの期待感などもあり、8月中旬にかけて上昇が続きました。その後は、F R B議長が景気を犠牲にしてでもインフレを抑制する姿勢を強調したことや、予想以上のインフレ率の上昇で欧米の金利が上昇したこと、英国の財政悪化懸念から英国債が急落したこと、企業業績の見通しの下方修正が相次いだことなどが嫌気され、10月半ばにかけて下落しました。当作成期末にかけては、英国発の混乱が収束したことや、一部報道によりF R Bが今後利上げ幅を縮小させるのではないかと期待が高まったことから、株価は反発しました。

### ■為替相場

為替相場は対円で上昇しました。

為替相場は、当作成期首より、米国景気への懸念などからリスク回避姿勢が強まり下落しましたが、2022年6月に米国で大幅な利上げが行われたことなどから、7月前半にかけて投資対象通貨は上昇しました。7月後半には、米国金利が低下に転じると日米金利差の縮小が意識され、円が買い戻されましたが、8月には、米国金利の上昇により日米金利差が再度拡大したことなどから、円安が進行しました。9月に入ると、F R B（米国連邦準備制度理事会）が大幅な金融引き締めを決定したのに対し、日銀は金融緩和政策の維持を決定したことで急速に円安が進行しました。これを受け、日本政府・日銀は円買い介入を実施したものの影響は限定的なものにとどまりました。当作成期末にかけては、米国の利上げペース鈍化観測から下落に転じ、投資対象通貨は上昇幅を縮めました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

「グローバル超好配当株式マザーファンド」の受益証券を通じて、予想配当利回りが高い世界の株式に投資し、安定的な配当等収益の確保と値上がり益の獲得による信託財産の成長をめざします。

## ■グローバル超好配当株式マザーファンド

日本を含む世界の予想配当利回りが高いと判断される企業の株式に投資します。ポートフォリオの構築にあたっては、以下の方針で行うことを基本とします。

- ・ 定量的なアプローチにより、予想配当利回りや配当の持続性と安定性、時価総額等の観点から投資対象ユニバースを選定します。
- ・ 投資対象ユニバースの中から、徹底したボトムアップアプローチにより、配当の持続性と安定性等に着目した定性的な分析・調査を行い、投資候補銘柄を選定します。
- ・ 投資候補銘柄の中から、ポートフォリオの地域・セクターの分散やリスクを考慮しつつ、ポートフォリオの予想配当利回りが相対的に高水準になるよう各銘柄の組入比率を決定します。

## ポートフォリオについて

(2022. 5. 24 ~ 2022. 11. 24)

## ■当ファンド

「グローバル超好配当株式マザーファンド」の受益証券を通じて、予想配当利回りが高い世界の株式に投資し、安定的な配当等収益の確保と値上がり益の獲得による信託財産の成長をめざしました。

## ■グローバル超好配当株式マザーファンド

日本を含む世界の予想配当利回りが高いと判断される企業の株式に投資しました。ポートフォリオの構築にあたっては、以下の方針で行うことを基本としました。

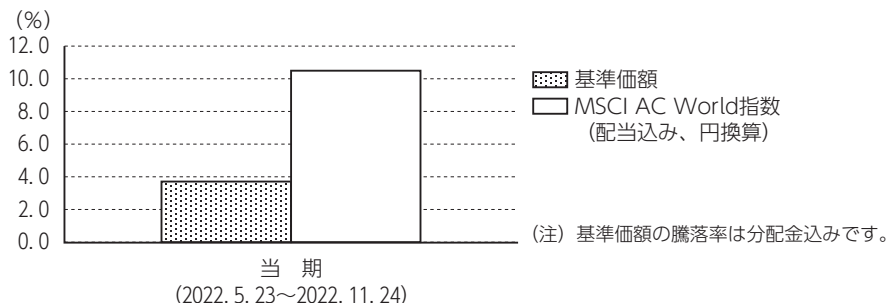
- ・ 定量的なアプローチにより、予想配当利回りや配当の持続性と安定性、時価総額等の観点から投資対象ユニバースを選定します。
- ・ 投資対象ユニバースの中から、徹底したボトムアップアプローチにより、配当の持続性と安定性等に着目した定性的な分析・調査を行い、投資候補銘柄を選定します。
- ・ 投資候補銘柄の中から、ポートフォリオの地域・セクターの分散やリスクを考慮しつつ、ポートフォリオの予想配当利回りが相対的に高水準になるよう各銘柄の組入比率を決定します。

国・地域別では、米国やスイス、英国などを組入上位としました。

個別銘柄では、GILEAD SCIENCES INC（米国）、ABBVIE INC（米国）、EXXON MOBIL CORP（米国）などを組入上位としました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期は、経費控除後の配当等収益が計上できなかったため、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### 分配原資の内訳（1万口当たり）

項 目	当 期	
	2022年 5月24日 ～2022年11月24日	
当期分配金 (税込み) (円)	—	
対基準価額比率 (%)	—	
当期の収益 (円)	—	
当期の収益以外 (円)	—	
翌期繰越分配対象額 (円)	2,240	

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「グローバル超好配当株式マザーファンド」の受益証券を通じて、予想配当利回りが高い世界の株式に投資し、安定的な配当等収益の確保と値上がり益の獲得による信託財産の成長をめざします。

### ■グローバル超好配当株式マザーファンド

日本を含む世界の予想配当利回りが高いと判断される企業の株式に投資します。ポートフォリオの構築にあたっては、以下の方針で行うことを基本とします。

- ・ 定量的なアプローチにより、予想配当利回りや配当の持続性と安定性、時価総額等の観点から投資対象ユニバースを選定します。
- ・ 投資対象ユニバースの中から、徹底したボトムアップアプローチにより、配当の持続性と安定性等に着目した定性的な分析・調査を行い、投資候補銘柄を選定します。
- ・ 投資候補銘柄の中から、ポートフォリオの地域・セクターの分散やリスクを考慮しつつ、ポートフォリオの予想配当利回りが相対的に高水準になるよう各銘柄の組入比率を決定します。

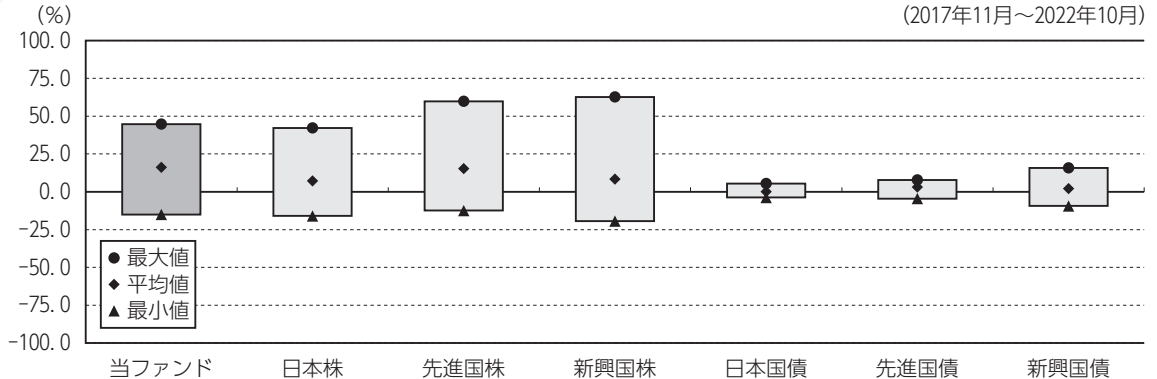


## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2019年11月5日～2024年11月22日	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行いません。	
主要投資対象	ベビーファンド	グローバル超好配当株式マザーファンドの受益証券
	グローバル超好配当株式マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所上場および店頭登録（上場予定および店頭登録予定を含みます。）の株式（DR（預託証券）を含みます。以下同じ。）
マザーファンドの運用方法	<p>①主として、日本を含む世界の株式の中から、予想配当利回りが高いと判断される企業の株式に投資し、安定的な配当等収益の確保と値上がり益の獲得による信託財産の成長をめざして運用を行いません。                  ※不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券に投資することがあります。</p> <p>②ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行なうことを基本とします。                  イ. 定量的なアプローチにより、予想配当利回りや配当の持続性と安定性、時価総額等の観点から投資対象ユニバースを選定します。                  ロ. 投資対象ユニバースの中から、徹底したボトムアップアプローチにより、配当の持続性と安定性等に着目した定性的な分析・調査を行ない、投資候補銘柄を選定します。                  ハ. 投資候補銘柄の中から、ポートフォリオの地域・セクターの分散やリスクを考慮しつつ、ポートフォリオの予想配当利回りが相対的に高水準になるよう各銘柄の組入比率を決定します。</p> <p>③株式の組入比率は、通常の状態で高位に維持することを基本とします。                  ④為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、配当等収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	



## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	44.7	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	15.7
平均値	16.2	7.2	15.3	8.4	0.0	3.2	2.0
最小値	△ 15.0	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 3.7	△ 4.5	△ 9.4

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものと異なして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマーシング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P.Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマーシング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●東証株価指数（TOPIX）の指数値および同指数にかかる標準または商標は、株式会社J.P.X総研または株式会社J.P.X総研の関連会社（以下「J.P.X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標準または商標に関するすべての権利はJ.P.Xが有します。J.P.Xは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマーシング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.（「MSCI」）が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関しいかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。[https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html] ●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他の権利は野村證券株式会社には帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●J.P.Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマーシング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morgan はその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morgan からの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016. J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



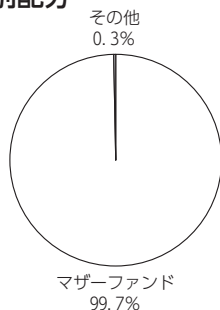
## ファンドデータ

### 当ファンドの組入資産の内容

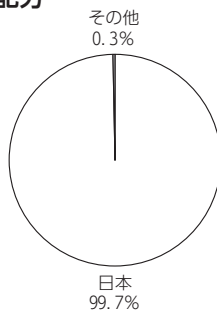
#### 組入ファンド等

	比率
グローバル超好配当株式マザーファンド	99.7%
その他	0.3

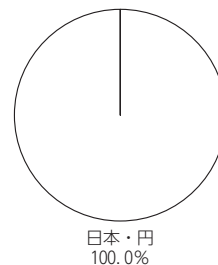
#### 資産別配分



#### 国別配分



#### 通貨別配分



(注1) 上記データは2022年11月24日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

※当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載していません。

### 純資産等

項目	当 期 末	
	2022年11月24日	
純資産総額	69,566,796円	
受益権総口数	56,834,721口	
1万口当り基準価額	12,240円	

\* 当期中における追加設定元本額は3,873,443円、同解約元本額は4,438,999円です。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

### 組入上位ファンドの概要

◆グローバル超好配当株式マザーファンド（作成対象期間 2021年11月25日～2022年11月24日）

12ページをご参照ください。